

授業改善書

科目名	教育原理(中高)
担当者	布村育子

授業の概要

主として教職課程を履修しようとする1年生の学生を対象とした授業である。教育原理は教育思想、教育制度、教育方法等、多岐にわたる内容で構成された授業である。他方、本授業が教職課程の本登録前の授業であるために、本登録のためのガイダンス的な授業であるとも位置付けられる。従って、本来教職概論等で教えるべき内容も含めた授業展開を行っている。

授業の問題点

例年、この授業は、教職課程履修希望者のみが登録しているのであるが、今年度は4名の学生が教職課程希望者以外の学生であった。「授業の概要」で書いたように、教職課程登録のためのガイダンス的な授業であるため、この4名の学生については、教養としての教育原理を教えられてはいないと思う。しかし、4名とも最後まできちんと出席し、成績も上位であった。

授業担当者は、4年間を通じて教職課程の授業を担当する為、1年次のこの授業だけは、講義中心としている。アクティブラーニングが求められる現在、2年生以降の授業同様に、ディベートや学生の発表等を取り入れることも考えているのであるが、基礎的な事項を教える為には、講義中心とならざるを得ない。学生の質問に答えられる時間がなかったことなどを考えると、今後改善も必要であろう。

授業改善の課題・方策

相対的にポイントが低かったのは、「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」という設問への回答と、「質問や発言をしましたか」という設問への回答であった。ここでは、この2点について改善の方策を示す。

まずは、「授業外学習」についてである。毎回、授業のはじめには、「前回の復習」として小テスト(回収はしない)を行っており、その小テストの内容を、期末テストにも反映させている。しかし、この小テストの存在が、授業外学習にはつながっていないことがわかった。参考文献等も適宜授業内で示しているのであるが、学生には届いていないようであった。今後は、授業の初回等に、参考文献一覧表等を配布するといった、改善点を考えている。

次に、「質問や発言」である。毎回、授業の終わりにはコメント用紙を配布し、そこに授業のまとめとして、課題を書かせている。このコメント用紙に質問等があれば書く様に促すことで、質問等は、受け付けることができると考えている。授業内の発言については、座席指定をしており、順番に意見等を言わせているのであるが、それは学生にとっての「発言」にはならないことを学んだ。しかし、演習ではなく、講義のため、自主的に学生が発言するといったこともあまり期待できないように思う。この点については、教職課程に2年次以降の授業と合わせて、今後も検討したいと思う。

その他